

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 スポーツ健康科学教育研究分野 氏名 鷹野 都
指導教授氏名	中路 重之
論文審査担当者	主 査 伊藤悦朗 副 査 萱場広之 副 査 早狩 誠
<p>(論文題目) 10 代前半における腹囲が動脈硬化度および糖・脂質代謝に及ぼす影響 (Influences of waist circumference on arterial stiffness, glucose and lipid metabolism in the early teens)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>2007 年厚生労働省により、小児期メタボリックシンドローム (MetS) の診断基準が提示された。この診断基準では、中学生では腹囲は 80cm 以上が必須項目となっている。これは、我が国の小児において腹囲 82cm を超えると代謝異常が増加し、中学生男子では 80cm、女子では 79cm が 90%タイルに相当するためである。しかし、学校保健の健診項目には血圧測定や血液検査は含まれていないため、腹囲を含めて脂質異常、血圧上昇、空腹時高血糖などは、肥満外来または肥満検診の受診者データをもとに検討されたものである。このために地域の一般の小児においてこの基準の妥当性を明らかにするために小児を対象とした疫学的研究が必要と考えられる。</p> <p>申請者は、日本の小児期 MetS の診断基準を検証する目的で、岩木健康増進プロジェクト津軽中学校健康調査を受けた中学 1 年生と 3 年生を対象に、男女別に腹囲と動脈の硬化度および MetS 関連血液項目の関係を調査・検討している。</p> <p>得られた主な結果は以下の通りであった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 腹囲が 80cm を越えると以下の検査値が有意に上昇した。1 年生男子：baPWV・収縮期血圧、TG、HbA1c、1 年生女子：総コレステロール、3 年生男子：拡張期血圧、総コレステロール、TG、3 年生女子：収縮期血圧、TG。</li> <li>2) 腹囲が 70cm を越えると、3 年生男子で収縮期血圧が有意に上昇した。</li> </ol> <p>これらの結果は、臨床的な (通常の) MetS の定義は既存の基準である腹囲 80cm が妥当であることを支持するものであった。しかし、予防医学的・公衆衛生学的見地に立った場合、収縮期血圧値が有意に高くなった腹囲 70cm あるいはそれ以下が腹囲の基準として適当であると考察している。本研究は、成人期の動脈硬化性疾患の予防に有益な情報を与えると期待され、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌に掲載予定